

「愛(エロス)の秘密——ディーブ・ラブにおける愛と智」

1 『饗宴——愛論、倫理篇』におけるエロス

中期対話編——イデア論の展開開始

(1) ソクラテスの逸話

1 p. 50, 145-146

早朝から翌朝まで考えに耽りながら立ちつくす——沈思黙考。瞑想的思考。

②アルキビアデスの賛辞 シレノスの坐像、サテュロスのマルシユアス

少年愛の肉体的誘惑に負けない。愛者のような顔をして欺く

(2) 一般的愛論——エロス賛美

愛的現象

1 パイドロス…愛のための献身と勇猛心＝「献身(個人)愛」

2 パウサニアス…万人向け(のアフロディテ) 肉体、愚昧な婦人に

天上のもの 少年愛 強さ、理性

愛者 愛される人 知恵や徳における向上

＝「教育愛」

3 エリュキシマコス…芸術・体育・農業・音楽など万物における和合的愛

＝「調和愛」

4 アリストファネス…両性を結合した性→分離→全一への憧憬がエロス

＝「全一愛」

5 アガトン…もっとも美しく優れており、福なる神。公正、自制、勇気、詩人。

→これに対するソクラテスの説明へ

①—④は部分的説明だが、愛的現象の一部ではある→統合の可能性

(3) デイオティマーソクラテス

1 エロス…美・善を欠いており、正しき意見(ドクサ)が知恵と無知の間にあるように、「善・美／悪・醜」の間、「滅びざる者／滅ぶべき者」「神の／人間」の間にある「神霊(ダイモーン)」。介在役

2 ポロス(術策の神)とペニヤ(窮乏)の息子、貧乏で知恵・術策

3 智者・無知者の中間たる愛智者(フィロソフォス)の一人

4 愛——善きものの永久所有に。

肉体の上でも心霊の上でも美しいものの中に生殖・生産すること

生殖——永劫・不滅——不死。古いものの代わりに新しいものを残す。

心霊の生産欲 知恵・徳など。詩人・独創者。

政治家・立法者——国と家の統制。

(4) 愛現象の秘儀

「愛の道」の完全な奥義と黙示

1 若い時…美しい肉体を愛し、美しい思想を産み付ける。

2 あらゆる肉体の美は同一不二であることを悟る。

3 愛をあらゆる美しい肉体に及ぼし、一人に対する愛を冷ます。

4 精神的(心霊上の)美…肉体上の美より、職業活動の美へ。

5 認識上の美…学問的認識

6 極致…驚嘆すべき美 常住に在るもの、生ずることもなく、滅することもなく、増すこともなく、

減ずることなく、…美醜もなく、全然独立自存しつつ永久に独特無二の姿を保てる美そのものの 直観(観る)

愛の正しい道は、地上の個々の美しいものから出発して、最高美を目指して上昇 「①一つの美しき肉体→②2つの肉体→③あらゆる美しき肉体→④美しき職業活動→⑤美しき学問→⑥美そのものの学問」

美を観るべき器官(心眼) 真の徳、神の友

2 プラトニック・ラブ

(1) 古典的・古代的愛

キリスト教 慈愛(カリタス)の観点からエロス批判、禁欲的。

仏教 愛=執着、無執着

⇔エロス評価

エリュキシマコス(調和愛)、アリストファネス(〈男女一体の神像)神話)の賛美演説

——原始的・古代的宗教 男女間の愛の肯定→生殖→繁栄

この点で、歴史的な世界宗教の思想を見直す必要性

→執着の愛をどう超えるか？

(2) プラトニック・ラブ

通俗的理解

・ エロ・グロ・ナンセンス 初歩的段階を極端に一面化

・ 手も握らないプラトニック・ラブ 高度な段階だけに焦点

これらの意味とは異なって、本当は、愛=エロスによって、肉体的な愛から始まって、霊的に高まり、神的な美そのものに至るような愛。神秘的な「愛の道」。

——愛と幸福を美徳と関連させる考え方。従って、努力が必要

→フロム『愛するということ』参照。

(3) 愛智と靈性

無知 →無知の智 →愛智 →智恵

人間(滅ぶべき者) 神靈 神(不滅)

〈人性(人知) 靈性(靈智) 神性(神智)〉

(4) ジェネラティヴィティー(generativity)

エリック・エリクソン ライフ・サイクル論

青年期の課題 アイデンティティー

→人生後半期の課題 ジェネラティヴィティー 世代継承生成性

生殖→公共的貢献 正にプラトニック的愛=エロスの目的

特に④の職業的貢献——公共的献身 例:論文を産む

ちなみに、キリスト教——創造

東洋哲学(日本神話も含む)——生成

それぞれに利点・弱点が存在

(5) 美そのものの智

般若心経 〈形而上学的空〉(⇔精神的空・無)

觀自在菩薩 行深般若波羅密多時 照見五蘊皆空度一切苦厄

舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是

舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色無受想行識 無眼耳鼻
舌身意 無色声香味触法 無眼界 乃至無意識界…

美を観るべき器官(心眼) 照見

無量光 ——美そのもの

否定的表現(仏教)／肯定的表現(プラトン)——肯定的・積極的道

(1) 愛の秘密

プラトンの愛においては、上昇の階梯を通じて、最終的にはイデアの認識という靈智ないし神智に至る。——仏教的には悟り。愛の道＝修行の道。

愛を通じて悟りに至るといのがその秘密。

キリスト教は、エロスよりもアガペーの方が高い愛とするが、愛の極致についてはあまり触れていない。この点では、プラトンの方が優れているとも言えよう。

3 靈的愛の道——ディープ・ラブへ

(1) 愛における発展段階

- 1 肉体的・特殊的爱 一人への個人的愛・性愛 美しいが利己的
- 2 肉体的・普遍的爱 一人への執着からの解放
- 3 普遍的友愛＝博愛 プラトンの場合は、美に限定されているが、それを一般化
- ④ 公共的爱 教育愛・職業愛・社会的愛 肉体・形態を超えた愛
- ⑤ 学問的爱による認識 学智
- ⑥ 神的爱 神智

統合的説明 他の人々の説明の内、

パイロスの献身的(個人)愛 美しいが、①水準

パウサニアスの教育的愛 ④水準

エリュキシマコスの調和愛 人間愛ではないが、④—⑥にはあてはまる。

アリストファネスの全一的愛 ①の水準における表現ながら、⑥にも当てはまる

(2) 表層愛と深層愛

表層生態学(シャロー・エコロジー)・表層平和

／深層生態学(ディープ・エコロジー)・深層平和

〈表層愛(shallow love)〉 形而下的爱＝個的爱・性愛＝感性的愛

①・②

①—執着の愛(仏教の否定—渴愛)

③ 中間

〈深層愛(deep love)〉 (形態を超えた愛としての)

形而上的爱＝超越的爱＝(超)理性的愛

④—⑥

キリスト教の愛(アガペー)・仏教の慈悲・儒教の仁

→世代継承生成性の愛

誘惑に負けないソクラテス

(ただし、理解の仕方によっては、④・⑤の一部は個的爱にとどまる場合もありうる)

※深層愛の下の表層愛はありうる。

(3) 愛の跳躍

②—④ 移行、愛の深層への突破

失恋の効用 失恋→普遍的愛へ

失恋を靈的飛躍の機会(チャンス)と見る発想の必要性

自己省察(瞑想) 実存哲学 実存体験

例：三角関係における(負けたときの)苦しさ

献身的個人愛はいかに純粋に務めても、それが個人的・特殊的愛である限り、その愛の対象となる人の愛を得たいという利己性が底にある。

——厳しく見ればエゴイズムであることの洞察。

→無私の愛 エゴイズムを超えた愛

普遍的友愛・人類愛→人類への奉仕へ (三四郎池の体験)

執着として切り捨てる仏教的方法とは異なって、愛を通じて個人的性を超えて普遍的友愛へと至る「愛の道」

失恋は一例、様々な挫折は同様の意義を持ち得る。挫折を飛躍へと生かす見方

——否定的経験に対する自己省察、そこから人生の意味を汲み取るという自己解釈の重要性

(4) 聖愛＝超個的愛

聖なる愛 無私の愛・無条件の愛・利他愛(アガペー)・菩薩愛

④・⑤の中の純粋なもの。＝超個的愛

理性的愛→超理性的愛＝靈智(直観智)の発現

ただし、エゴイズムは超えても自己の限界(「自己／他者」の感覚)は残っている。――

――他者(としてのあなた)への献身・奉仕

→公共的献身・奉仕

(5) 神(的)愛＝全一(論)的愛

美そのもの・光そのものというアイデアの直観＝叡智＝神智

『饗宴』では明確ではないが、新プラトン主義ではこれは全一論的愛に

――「神＝全一者」との合一を求める愛

全一者としての一体性の自覚。自己の消失と全一論的自己(個)の覚醒

「私／あなた」「自己／他者」という原子論的アイデンティティー

から全一なるものの一部としての「私＝あなた」という全一論的アイデンティティーへの移行。一人の人間の右手・左手。

→この時、三角関係の苦しさは消失し、愛のみが残る。

「勝者たる他者＝敗者たる私」だから。

通常の間人には困難な意識。しかし、この意識の論理的可能性を知ることによって、「愛の飛躍」が可能になる。

このように考えると、エロスは、人との合一を求めるところから始まって、神との合一へと上昇してゆく愛である。

(5) 総括：愛的成長論＝愛の階梯

表層愛(形而下的愛)＝肉体的・形態的愛＝感性的愛

①(肉体的・特殊的愛＝個的愛)→②(肉体的・普遍的愛)

中間 ③(普遍的友愛・博愛)

深層愛(形而上的愛)＝超越的愛＝(超)理性的愛

④(公共的愛)→⑤(学問的愛) 超個的愛＝聖愛・無私の愛＝理性的愛

⑥(神的愛) 全一論的愛＝叡智的愛

参考：●知的成長論

=智の階梯(プラトン一線分の比喩)

①感情界 具体的知性

②理性界

②—1 抽象的理性

②—2 直観的理性(超理性)

③叡智界

cf.: 靈智(②—2, ③)、神智(③)

愛的成長と知的成長との並行性

——表層愛(感性愛)は感情界、深層愛は理性界と叡智界に対応。